

令和4年度全国学力・学習状況調査

朝来市立中川小学校6年生

学力・学習状況調査の分析結果

調査の概要

■調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

■教科に関する調査【国語・算数・理科】

- 身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など。
- 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力など。

■生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

- 児童生徒に対する調査
 - 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査
- 学校に対する調査
 - 指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

国語

■概要

- ・全国平均・県平均よりやや下回る正答率である。
- ・「書くこと」は大きく上回っている。
- ・「知識及び技能：言葉の特徴や使い方に関する事項」は下回っている。

■よくできた問題

- ① 1 三 中村さんが前田さんに質問し、知りたかったことの説明として適切なものを選択する。
- ② 3 一 どのようなことに気を付けて書いたのか、適切なものを選択する。

■定着傾向にある内容

- 必要なことを質問し自分が聞きたいことの中心を捉えることができる。
- 表現の効果を考えることができる。
- 文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えることができる。

■苦手とした問題

- ① 2 一（2） 「ぼく」の気持ちの説明として適切な物を選択する。
- ② 三 漢字を使って書き直す。

■課題がある内容とその要因

- ▲学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができる。
 - ⇒既習漢字を日常的に使う習慣が身についていない。
- ▲互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、自分の考えをまとめることができる。
 - ⇒提示された複数の条件（字数や使用する言葉等）に沿った文を書くことができない。
- ▲登場人物の相互関係について、描写をもとに捉えることができる。
 - ⇒長文問題では内容を的確に読み取ることが難しい。

■指導上の工夫と改善点

- ☆書く活動を積極的に取り入れ日常的に漢字を使うよう指導し、漢字の小テストを行って定着を図る。
- ☆書く活動を積極的に取り入れキーワードや字数制限等の条件を付けた文章を書く機会を増す。
また、テーマ作文等自分の考えを主張するような文章を書くことに慣れる。
- ☆国語等の時間に読書のあり方についてていねいに指導する。月に一度の「読書の日」を活用し読書習慣の定着に向けて推進していく。

算 数

■概要

- ・全国平均・県平均と同程度の正答率である。
- ・「変化と関係」「データの活用」「図形」がやや下回っている。
- ・正答率の中間層の割合が少ない(すり鉢状)。

■よくできた問題

- ・1(3) カップケーキ7個分の値段を、 $1470 \div 3$ で求めることができるわけを書く。

■定着傾向が見られる内容

- 「数と計算」において、正答率が全国平均・県平均を上回っている。
- 2つの数の最小公倍数を正しく求めることや、問題の意図や指示に合った数の処理することができる。
- 記述式問題の正答率が全国平均・県平均を上回っている。

■苦手とした問題

- ・2(3) 果汁が含まれている飲み物の量を半分にしたときの、果汁の割合について正しいものを選ぶ。

■課題が見られる内容とその要因

- ▲百分率で表された割合と基準量から比較量を求めることができる。
⇒「割合＝割り算」と安易に考え数量の関係を正しく捉えられていない。
- ▲数量が変わっても割合は変わらないことを理解している。
⇒例えば、飲み物を2人で等しく分けると、飲み物の量は半分になるのだが、同様に含まれる果汁の割合も半分になるという誤答が8割ある。一つに生活体験がないことが想定される。
- ▲分類・整理されたデータを基に、目的に応じてデータの特徴を捉え考察できる。
⇒与えられた条件を理解せずに、安易に一番多いものから整理している。
- ▲図形を構成する要素に着目して、ひし形の意味や性質、構成の仕方について理解している。
⇒プログラミングの学習経験の有無が問題内容の理解度に影響している。

■指導上の工夫と改善点

- ☆ドリルタイムを充実させ、四則計算の精度を今以上に高める。
- ☆図や表が表す意味と式との関連性についての指導を徹底する。
- ☆自分の考えを持ち、解き方を適正な言葉を使って説明できる活動の場を増やす。
- ☆授業において、プログラミング(スクラッチ)のデータ上での学習や、実際に紙面に書くという具体的操作を入れた活動を積極的に取り入れる。
- ☆「分からない」と言える学級の雰囲気作り、活発な意見交流が行える授業展開を工夫する。

理 科

■概要

- ・全国平均・県平均を下回る正答率である。
- ・「生命」に関する領域が大きく下回っている。
- ・記述式問題が大きく下回っている。

■よくできた問題

- ① 1(4) カブトムシの育ち方と主な食べ物の特徴から表のどこに当てはまるのかを選ぶ。
- ② 4(1) 冬の天気と気温の変化を基に、問題に対するまとめを選ぶ。

■定着傾向が見られる内容

- 提示された情報を複数の視点で分析して解釈し、自分の考えをもつことができる。
- 観察結果を、問題に沿った視点で分析して解釈し、自分の考えをもつことができる。

■苦手とした問題

- ① 1(2) 相応しいまとめになるようにひろしさんの問題に対するまとめを書き直しましょう。
- ② 1(5) ひろしさんは、気づいたことをもとに、問題を見つけ、解決していくことにしました。どのような問題を見つけましたか。
- ③ 3(2) 問題を解決するために最も適切な記録はどれですか。

■課題が見られる内容とその要因

- ▲問題に対するまとめを検討して改善し、自分の考えをもち、その内容を記述できる。
⇒資料の見方がわかっていない。ポイント・キーワード・問われていることが整理できない。
一つのことを書けば満足してしまい読みが浅い。
- ▲観察等で得た結果を他者の気付きの視点で分析して解釈し、自分の考えをもつことができる。
⇒二つの文の比較が正しくできていない。
- ▲まとめを導きだすことができるように、実験の過程や結果を適切に記録している。
⇒正確な文章の読み取りができていない。

■指導上の工夫と改善点

- ☆書く活動を積極的に取り入れ、自分の考えを持つ習慣を身に付けさせる。
- ☆書く活動、話し合う活動(説明)において、「なぜ」という根拠を明らかにさせる。
- ☆実験がうまくいかなかった原因をじっくり考える場面をつくる。
- ☆自然事象を科学的な視点で捉え、比較したり、関係付けたりして探究する授業づくりをする。

学習・生活の状況

生活習慣

【よい傾向】

- テレビ、ゲーム等に費やす時間が少ない児童は家庭でのルールを守ることができている。
- ほぼ全員が自分でやると決めたことはやりとげるようにしていると回答している。
- 地域にあった生活(自然とのふれあい)や地域の行事への参加率は8割以上で意識が高い。

【課題】

- ▲自分には良いところがないと考えている児童が2割いる。
- ▲地域や社会をよくするためのことを考えている児童は半数である。
- ▲テレビ、ゲーム等に費やす時間が多いと答えた児童は、家庭でのルールが曖昧で正答率も低い傾向にある。

【改善の工夫】

- ☆学習目標や生活目標が形骸化しないように、生活点検等を行わせて日々意識させる。
- ☆食育の推進等を通して、地域のよさに気づかせ、キャリア形成に結びつける。
- ☆家庭生活におけるけじめについては、通信等で繰り返し保護者に呼びかける。

学習習慣

【よい傾向】

- 宿題については、わからないことをそのままにせず、粘り強く取り組もうとしている。
- 自分の考えをまとめたり工夫して発表したりする、課題解決を図る方法を生かそうとする意識

が高い。

※土日に学習時間をとっていないと回答した児童は社会スポーツなどの予定があり、金曜日のうちに課題を終わらせているのではないか。

【課題】

▲読書が好き、どちらかといえば好きと回答している児童が8割と多いにもかかわらず、読書時間が30分以内と回答している児童がとても多い。

▲学習でわからないことがあった時に、先生等に質問すると回答した児童は少ない。

【改善の工夫】

☆国語等の時間に、読書のあり方についてていねいに指導する。また、日々チェックできるような生活点検や教室掲示を設ける。

☆「分からない」と言える学級の雰囲気作り、活発な意見交流が行える授業展開を工夫する。

教科に関すること

【よい傾向】

○国語、算数の勉強は大切だと考えている児童がほとんどである。

○算数が苦手と感じている児童は過半数いるが、将来必要であることは理解している。

【課題】

▲理科の勉強は大切と思う児童は、国語や算数に比べて少ない。

▲国語や理科に比べて、算数の授業の内容がわからないと回答した児童は2倍である。

▲理科で、実験の計画を立てる、結果から考察する、ふり返って確かめる、といった活動が苦手だと回答した児童が一定数いる。論理的思考が苦手であると推察される。

▲どの教科も時間が足りなかったと回答した児童がいる。

▲すべての科目において、将来には特に役に立つわけではないと考えている児童がいる。

【改善の工夫】

☆書く活動を積極的に取り入れ、必要なことはメモを取る、重要な言葉等には線を引く、絵や図にしてみる等の活動を習慣づける。

☆読書のあり方とも関連付けて、読む活動の時間を十分に確保する。